

第7章 河川空間の現状

7.1 河川敷等の利用の状況

平成15年度に小瀬川直轄区間の河川利用実態調査を実施した。

小瀬川の年間空間利用者総数(平成15年度推定)は約14万人である。沿川市町人口^{※)}からみた年間平均利用回数は約1.0回となっている。各調査日とも利用者数が多い地点は春季の休日で4km地点、夏季の左岸8km地点、秋・冬季の2km地点である。これらの地点は駐車スペースがある箇所や環境護岸整備が進んでいる箇所である。

季節別には冬季の平成16年1月12日の利用者数が964人と最も多く、その利用形態は散策等が9割を占める。春季は下流部の水際で潮干狩り等の利用者が多い。夏季には中・上流部で水遊びや釣りの利用者が多い。秋季は散策等の利用者が多く、冬季は河川敷で「とんど祭り」が行われ利用者が多かった。春季の潮干狩りシーズンには潮干狩りで90人以上が利用している。

利用形態別には、全体的に散策の利用者が91%と最も多く、水遊び6%、釣り3%となっている。全国平均と比べてスポーツが非常に少ない。

利用場所別では、堤防が85%と最も多く、次いで水際8%で両者で93%となっている。

平成12年度と平成15年度を比べると、春季平日、夏季、秋季の利用者が減少している。特に夏季の水遊びや釣りの利用者が冷夏の影響で著しく減少した。秋季は調査当日朝まで降っていた雨の影響で利用者の出足が鈍った。その他の調査日は散策等の利用者が増加している。

※) 平成15年度末時点の沿川市町人口

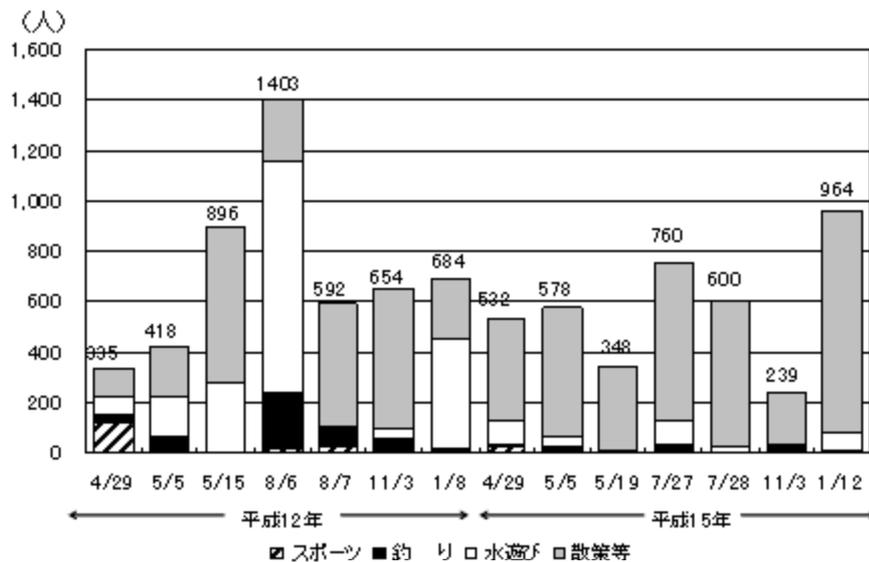


図-7.1.1 小瀬川における各季の利用状況

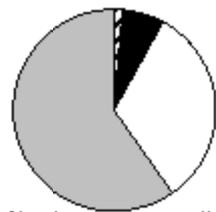
区分	項目	年間推計値 (千人)		利用状況の割合	
		平成12年度	平成15年度	平成12年度	平成15年度
利用形態別	スポーツ 	3	0	 平成12年度 散策等(60%) スポーツ(1%) 水遊び(32%) 釣り(7%)	 平成15年度 散策等(91%) スポーツ(0%) 水遊び(6%) 釣り(3%)
	釣り 	17	4		
	水遊び 	80	8		
	散策等 	149	131		
	合計	249	143		
利用場所別	水面 	14	0	 平成12年度 堤防(59%) 水面(6%) 高水敷(2%) 水際(33%)	 平成15年度 堤防(85%) 水面(0%) 高水敷(7%) 水際(8%)
	水際 	83	12		
	高水敷 	4	11		
	堤防 	148	120		
	合計	249	143		

図-7.1.2 小瀬川における年間河川空間利用状況

7.2 河川の利用状況

(1) 河川の利用実態

小瀬川の河川利用状況は、上流に西中国山地国定公園、羅漢山県立自然公園(山口県)が隣接し、鳥獣保護区や自然環境保全地域に指定されている区間等が多く、自然に恵まれている。中流部は全国有数の規模を誇る弥栄ダムが完成し、関係自治体により周辺整備がなされ、7月には弥栄湖スポーツフェスティバルが開催されて、レクリエーションの場として多くの人々に利用されている。また、下流部は水辺の楽校や親水護岸などが整備され、散策、魚釣り等に利用されている他、「ひな流し(大竹市)」等、小瀬川を舞台に様々な伝統行事が催されている。



環境学習（自然体験編）



環境学習（源流調査編）



中津原水辺の楽校



流し雛の風景



大和橋右岸アンダーパス(散策道)

(2) 内水面漁業

小瀬川水系における漁業権は、2 漁業組合により設定されている。漁業の種類はアユ漁が主であり、漁業権対象魚種は、アユ、マス、コイ、ウナギ、フナ、モクズガニの6種類である。

表-7.2.1 小瀬川の漁業権設定一覧表

漁業権免許番号	漁業権者 (漁業協同組合)	漁業の名称 (漁業)	時期	対象河川
内水共第1号	芸防	あゆ	4/1~11/30	小瀬川、谷川、大根川、日宛川、 管ノ原川、石原川、湯原川
		ます、こい、うなぎ、 ふな、もくずがに	1/1~12/31	
内水共第2号	木野川 芸防	あゆ	4/1~11/30	小瀬川
		うなぎ	1/1~12/31	
内水共第3号	木野川	あゆ	4/1~11/30	小瀬川、七瀬川
内水共第4号	木野川	ます、うなぎ	1/1~12/31	小瀬川、市野川、池の谷川、 冷川、悪谷川、中道川、黒打川、 七瀬川、焼山川、青笹川、 樽川、大虫川
内水共第5号	木野川	あゆ	4/1~11/30	玖島川
		うなぎ	1/1~12/31	
内水共第6号	木野川	ます	1/1~12/31	玖島川、吉末川、平谷川、 大町川、内野川

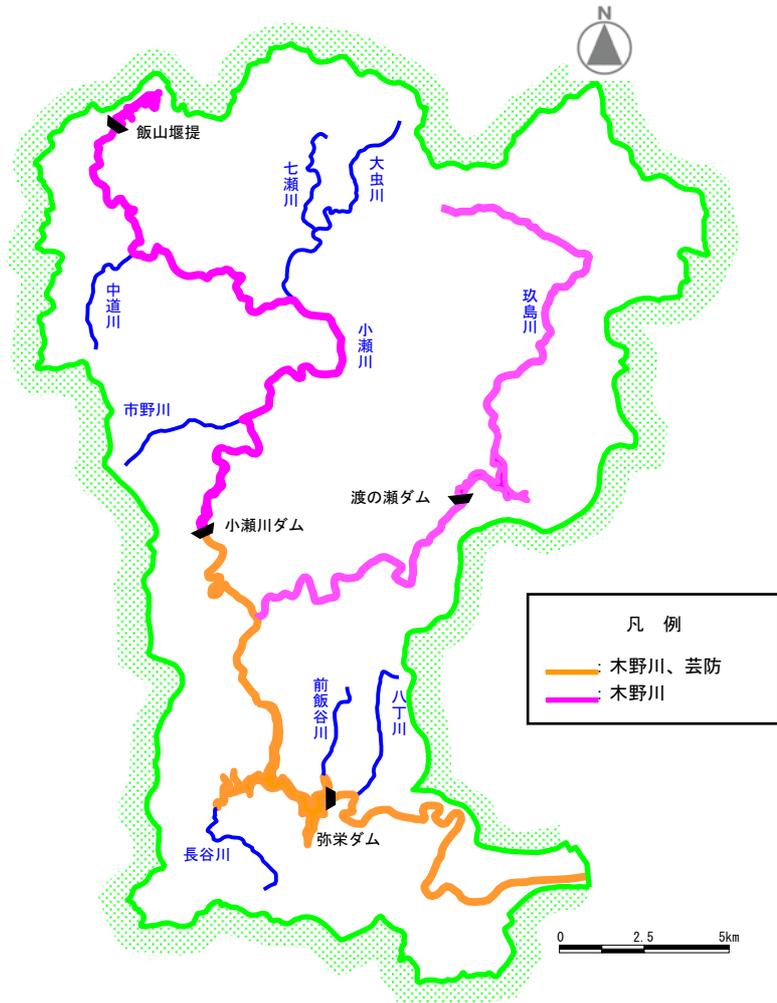


図-7.2.1 小瀬川漁業権設定状況